=市史編さん便り=　【７号】令和４年５月 10 日(火) 発行.
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊土佐清水市教育委員会生涯学習課・市史編さん室

◎足摺岬小学校区の歴史＆文化財　特集号⑷

前号(6 号)でお知らせしていたように今号も足摺岬小学校区に所在している文化財の紹介、特に足摺地区に所在している物を行います。足摺岬地区は、国指定の文化財はありませんが、金剛福寺の仏像や図画がたくさん県指定や市指定の文化財になっています。詳しくは土佐清水市のホームページの生涯学習課のタグをクリックしていただければご覧いただくことができます。また、市民図書館で『土佐清水市の指定文化財』(土佐清水市教育委員会、2017 年) を閲覧していただければこれをまとめております。

(1)白山洞門(県国指定文化財〈天然記念物〉昭和 28 年〈1953〉)

足摺半島の南部から西部にかけての一帯には、海蝕によるたくさんの洞穴が存在している。例えば、足摺岬灯台直下の岩場にも大きな洞穴が開いている。白山洞門はその灯台から 500 メートルほど西に行った島状の標高約 46 メートルの岩塊(「白山」と呼ばれる) の中央に海蝕によってできた洞穴である。

この白山洞門は、高さ約 16 メートル、横幅約 17 メートル、奥行約 15 メートル規模の洞門である。これは海蝕洞門としては国内最大規模である。洞門の真上には、白山神社の本殿が配置され、白山全体をご神体と捉えてお祀りしている。

足摺岬の沖合海上から足摺岬地区(伊佐集落)を見ると、海岸段丘面上にパラボラ状に広がる足摺岬地区がまるでステージ舞台のようで、白山洞門はそのステージへの入口の門のような配置になっている。

（２）近世「伊佐浦郷図」から読めること…

↑室戸市羽根・山本武雄氏所蔵「伊佐浦郷図」（1800 年代に描かれたと推定される）

上の絵図を観察すると、金剛福寺周辺部が大きくデフォルメされて描かれている。戦国時代の『長宗我部地検帳』「足摺之村地検帳」では、この一帯は「寺直分」と区別されている。現在の金剛福寺と土産物店や展望台がある付近一帯である。かつては、謹坊・玉照坊・大坊・上琳坊等の宗教施設が林立し、警護の寺侍が常駐していた弓場屋敷や岡崎屋敷が存在していた。補陀落信仰の聖地としての宗教的な様相を呈していた。

左上に「白王山」と記され、現在の白皇山上に現在の白皇神社が所在している。明治以降、廃仏毀釈により神仏分離しているが、白皇神社は、かつては金剛福寺に所属する奥院であった。白皇山山頂に近いところに宮の礎石石組みや手水鉢が現在も残っている。ここには修験僧が住居を構え、水田耕作などを行っていた。白皇神社が現在の足摺岬駐在所北に移動してきたのは恐らく大正時代のことと思われる。

西川が流れ、下流に納家（納屋）や舟引湊があり、近世から伊佐港が機能していた様子をうかがうことができる。所々に「濱道」が描かれている。これらの濱道は、現在も残存しており、地域学習等で場所を比定するとよい社会科学習になるのではないだろうか。
海岸には「〇〇アジロ」の記載が目立つ。「アジロ」とは漢字で書くと「網代」であり、漁網を敷設した場所である。波の荒い足摺岬地区ではあるが、その荒磯に網を敷き、必死で漁業を行っていたのだろう。きっと生活するため、生きるため地域住民は、荒波の中を過酷な環境下で命を懸けて、愛する家族のために必死で仕事をしていたのである。

たった一枚の近世絵図かもしれないが、そこからその地域に住む人々の状況を多く読み取ることができる。